

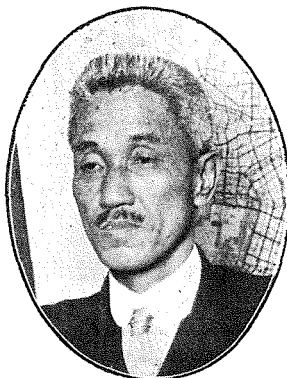
Mr. T. Seino, The Head of Reconstruction Board.

復興局長官 清野長太郎氏



Mr. T. Kasahara, The Head of Building Department of Reconstruction Board.

復興局建築部長 笠原敏郎氏



Mr. Y. Ota, The Head of Civil Engineering Department of Reconstruction Board.

復興局土木部長 大田圓三氏

1.

太田氏は談論風發の人である、而して復興局の殆んど總ての技術家を外に向つて代表してをる様に見える實行論者であつて然も其見識は非凡なものがある、毀譽紛々たる世評の復興局にあつて氏の英氣は技術家として實に大なる一人である。氏の談片を何ふに次のものがある。

2.

曾て自分は觀光の一洋人と話した事がありますが其人の第一番の感想は「日本の田舎は、旅行記や案内記で豫々憧れて居た通りであるが、都會ばかりは實に意外である、何と云ふ不體哉だらう」と云ふことでありました。舗装なき道路の塵埃、朝夕見らるゝ電車の鈴なり、不潔極まる肥桶荷馬車の往來、狭い道路に簇立する電信柱、不體裁極まる路次あたりの景色に接しては、誰か斯かる感想を抱かないものありませうか。

3.

今度の震災も、之れを唯不可抗力な自然の致す處だと諦めて了へばそれ迄であります、少しく冷靜に考へますと斯くも災害を大ならしめたのは、決して單なる自然の力のみではなかつたものと思はれます。新進の日本として開國以來歐米の文明を輸入するに急であつた結果は、一面からは異常な進歩發展を齎しましたが、一面からは甚だ皮相的物質文明を作り擧げて仕舞ひました。現時の日本に於ける都會生活の如きは實に其顯著なる一例であります。二百萬からの人間が一地域に集團して、都會生活を營むには、自ら諸種の條件を必要とするものでありまして、都會生活は決して單なる村落の自然的集合ではない筈であります。夫故に日本の都市の改造に就ては、既往幾度か心ある學者技術者に依つて、其必要を説かれたのでありますが、市民の自覺足らざりしか、識者の努力至らざりしか、容易に其實現を見ずして今日に至つたのであります。